

科目名	日本語教授法Ⅱ－ii	後期	講義	2単位
サブタイトル	模擬実習を通じた実践日本語教育			
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標] グループ発表を通して、模擬実習の経験を積むことを目標とする。</p> <p>[授業概要] 日本語教授法Ⅱでは、日本語学概論から、言語学概論、日本語教授法Ⅰで学んだ知識と理論を授業の中でどのように生かせるかを学び、同時に、日本語教育実習への準備としてグループでの発表も行う。教科書は日本語教授法Ⅰで使用した『みんなの日本語初級Ⅰ』を使用し、授業での教室作業をグループで検討して発表後、その内容について討議する。教科書の使用法、教授法については日本語教授法Ⅰで講義をしているので、前年度までに教授法Ⅰを履修した学生の受講が望ましい。本講義を履修する学生は、日本語実習を併修すること。4回生の模擬実習のみの受講は認めない。また、4回生時に、日本語教員養成講座のすべての単位を取得することも認めない。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 発表グループの担当する課を事前に読んでから、授業に参加すること。</p> <p>[授業計画] 1. 模擬実習の準備 2. 模擬実習の実際 3. 模擬実習 グループ1 4. 模擬実習 グループ2 5. 模擬実習 グループ3 6. 模擬実習 グループ4 7. 模擬実習 グループ5 8. 模擬実習 グループ6 9. 模擬実習 グループ7 10. 模擬実習 グループ8 11. 模擬実習 グループ9 12. 模擬実習 グループ10 13. まとめ</p>				

科目名	日本語教授法Ⅱ－ii	後期	講義	2単位
サブタイトル	模擬実習を通じた実践日本語教育			
担当者	安原 順子			
<p>[成績評価方法] 模擬実習(80%)、受講態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 模擬実習前には教育実習案について、模擬実習後には模擬実習についてコメントし、フィードバックを行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 日文1-1/日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 日文2-3/内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 日文3-1/自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 日文3-4/日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 『みんなの日本語初級1』第2版 著者名: 鶴尾能子 出版社: (スリーエーネットワーク) (978-4-88319-603-6)</p> <p>[参考書(ISBN)] なし</p>				